

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、〈 〉はR02最終評価のデータ

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
<p>1 書くことを基本に自らの考えを整理し、深く思考することで論理的思考力及び批判的思考力を育成し、課題発見・解決能力を身につけ生きる力を育成する。その際には、主体的・対話的で深い学びを実現する様々な手法を活用する。</p>	<p>① アクティブ・ラーニングやディスカッションを授業の中に導入するとともに、ICT機器（iPad・クロムブック）を活用し授業力の向上を図る。</p>	<p>アクティブ・ラーニングやディスカッションさらにICT機器を活用することにより学習効果が高まった（a 強く + b やや）と感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>79.5% B 〈74.5% B〉</p>	<p>「感じている」+「やや感じている」が昨年度より5.0ポイント上回った。これはアクティブ・ラーニングやディスカッションについて、その技法や内容面に改善してきた結果と考えられる。日頃から授業手法や成果の共有を行い、「思考する授業」を実践し、生徒が主体的能動的に取り組む授業を増やしてきた成果であると思われる。今後、更に学習効果が高まった感じることができる授業を実施していきたい。</p>
	<p>② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。</p>	<p>日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表（発言）する場面（a 多く + b 時々）設定している割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満</p>	<p>80.6% C 〈81.6% C〉</p>	<p>中間評価では、a + bが89.8%であった。3年は共通テスト前で演習中心の授業が展開されるため、最終評価で下げる傾向にある。ただ、昨年度と比較するとa + bは80.6%とわずかに下回る程度であるが、aのみについてみれば10%以上下降している。Chromebook等の活用によって、生徒の考えを共有するまでの指導にとどまり、従来行なわれていたグループ活動後の発表のような教師と生徒及び生徒同士の意見交換による深い学びまで実践できていないことが要因であると考えられる。今年度のChromebook等の活用の効果と反省点を次年度の効果的な活用につなげたい。</p>
	<p>③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。</p>	<p>家庭学習に積極的に取り組み、十分に確保できたと考えている生徒が、 A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>66.8% C 〈68.0% C〉</p>	<p>中間評価ではa + b=62.7%で、中間評価より4ポイント上げる結果となったが、対昨年比較では、若干下げる結果となった。2,3年生は昨年より増加しているが、1年生が減少している。年度当初は良い意味での緊張感から家庭学習に取り組んでいたが、特に定期試験前に対する学習時間が少ないのが気に掛かる。今後は学年団、進路課とも連携を図り、自発的に家庭学習に取り組む習慣を確立させていきたい。</p>
	<p>④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。</p>	<p>朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>【1年】 80.7% A 〈74.6% B〉 【2年】 81.7% A 〈76.1% B〉 【3年】 78.8% B 〈80.0% A〉 【全体】 80.3% A 〈79.3% B〉</p>	<p>【1年】 英数国の小テストを中心に、2日間思考の時間を行っている。成果は、小テストに対して家庭での学習習慣の確立をはかるとともに、基礎力の向上に役立っている。また、思考の時間ではChromebookを使用して読解力を伸ばすことができた。一方、課題は全体的に家庭学習習慣が身につけているとはまだまだいえず、朝学校に来てから短時間の学習のみを行っている生徒もいるのが現状である。 【2年】 2学期から文系・理系で内容を変えてはいるが、昼食時や放課後の再テストや学習会と連動させることは4月から継続して行っている。担任の声かけもあり、朝学習で基礎的な知識を身に付けようとする生徒が若干増えたようである。ただ、課題や学習に対して受動的な生徒も多いので、より能動的、自発的な取り組みを促したい。 【3年】 英語は英文速読とリスニング演習、他の教科は小テストを中心に朝学習を行った。小テストについては不合格者の指導に各教科工夫を凝らして基礎力の養成に努め、一定の成果を上げることができた。しかし、昼食時に不合格者への対応をしなければならぬ場合が多く、ホーム担任は生徒との個人面談等とのバッティングで苦勞することが多かった。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・生徒による授業評価アンケートでは、多くの項目で過去を上回る肯定的評価を得ている。教員の尽力によるものと思うが、引き続き取り組みを進めて欲しい。 ・生徒による授業評価アンケートで、生徒の満足度が高い様子が見られ、素晴らしい。特に、授業がわかりやすいと感じ、教師の熱意・工夫に応えるよう、生徒も意欲的に取り組む様子が窺える。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>・研究授業やICT活用などにより不断の授業改善を行う。</p>			

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、〈 〉はR02最終評価のデータ

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
2 個別面談や学習活動を通じたきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、生徒の進路意識を高め、設定した進路目標を実現するために自ら能動的に学習し、学力を高める努力をするような意識づけを行う。	【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%以上 【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 90人以上 B 70人以上 C 50人以上 D 50人未満	【1年】87.0% B 〈93.4% A〉 【2年】83.2% C 〈89.5% B〉 【3年】117名 A 〈122名 A〉	【1年】1学期からの文理選択指導や進路講話等で早期の進路指導を行った。2年次になってもこの意識を保ちつつ、高みを目指す指導を継続していく。 【2年】1年次より継続して生徒の進路意識を高めてきたが、志望の多様化に伴い評価はCとなった。今後も継続して高い志望を持たせる方向で指導を続けていきたい。 【3年】金沢大学以上を目標とする生徒数が昨年度に引き続き多かった。高い志望を叶えた先輩たちの存在や継続した国公立を目標とする指導の成果であると考え。
	② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	1,2年生の学力試験で国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が A 平均偏差値48以上 B 平均偏差値45以上 C 平均偏差値42以上 D 平均偏差値42未満	11月進研模試による。 【1年】国語47.0B 〈45.6〉 数学46.2B 〈46.4〉 英語44.4C 〈43.2〉 【2年】国語47.5B 〈47.8〉 数学47.3B 〈48.5〉 英語45.5B 〈44.2〉	11月進研模試の3教科総合全校偏差値は、1年が45.2であった。これは、昨年度より高いが、一昨年度よりは低い。2年5教科総合偏差値は理系が43.6、文系が45.8であった。これは、昨年度、一昨年度より低い、上位者層の数は維持されている。今後もモチベーションを保ち受験に臨むように指導していきたい。
	③	1,2年生の国語・数学・英語の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 45人以上 B 40人以上 C 35人以上 D 35人未満	全国偏差値54以上の生徒 【1年】 14名：D 〈8名：D〉 【2年】 25名：D 〈24名：D〉	1年は、前年度比で人数が大幅に増加したが、評価はDであり、今後の増加を目指した指導が必要である。 2年は、前項目でも述べたように、上位者数は昨年と変わらない。上位者を維持して3年の受験体制に入りたい。
	④	金沢大学以上の国公立大学合格者数が A 10人以上 B 8人以上 C 5人以上 D 5人未満	5人 C 〈3人：D〉	大阪大学1（過年度卒）、金沢大学4年度当初より、金沢大学より上の大学を目指す生徒に向けて、特別指導を行ってきた。この体制を維持して、来年度は評価をワンランク上げたい。
	国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 55人未満	81人 A 〈75人：A〉	国公立大学合格者は、推薦合格者20名、前期試験合格者55名、その他6名で計81名であった。	
	難関私立大学合格者数が A 10人以上 B 7人以上 C 5人以上 D 5人未満	4人 D 〈7人：B〉	関西大学1、立命館大学2、立教大学1、計4名であった。例年との違いは、指定校推薦該当者がいなかったこと、新型コロナウイルス感染の影響で、県外私立大学の出願者数が少なかったことが挙げられる。文Ⅱコースの学習のモチベーションを上げていかなければならない。	
学校関係者評価委員会の評価	・4年制大学の志願者の増加は教師の努力の結果と思われる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・今後も生徒に高い目標を持たせるとともに、学習動画等の教材を生かした個別最適化により進路実現を図る。			

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、〈 〉はR02最終評価のデータ

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
3 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらう。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が3回以上の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	26.7% : D 〈29.4% : D〉	昨年に引き続き、総会・朝の挨拶運動・明倫祭などが取りやめまたは生徒のみの開催となり、3回以上来校の割合が昨年の29.4%から微減となった。コロナの影響で仕方がないが、生徒の活躍を見てもらうことができず残念であった。1・2年生の保護者は活動を見ることができなかったが、PTA活動において来年は誰も経験がない状態になることを危惧された今年の3年の役員の方が丁寧に1・2年生の役員に自分たちの経験を伝えてくださっていた。来年はより明確に情報のやりとりをする必要があると思われる。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	ホームページ上の更新回数が A 100回以上 B 80回以上 C 60回以上 D 40回未満	100回以上 A 〈100回以上 A〉 12月現在(学校日誌77 保健だより・相談室便り10 学年より30 総合的な探究の時間14 月別行事予定10) その他総体・総文・新人大会速報・部活のニュース・奨学金のお知らせ・PTAのお知らせ・同窓会からのお知らせ・体験入学のお知らせ・入試関連のお知らせなど不定期に多数更新	行事をはじめ、学習活動の様子、部活動の取り組みや大会等の経過や結果、行事予定や保健だよりなどを随時発信している。生徒の活躍の様子、学校からのお知らせ、中学生へのお知らせなど、情報の充実をめざし各学年・顧問・担当部署が更新した。ホームページをよく見るという回答は31%で、まだ半数にも満たないが、閲覧回数は非常に伸びており、(5月末863,139→12月末1,109,455) 熱心に見てくださっていることで励みになっている。
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	93.8% A 〈93.6% : A〉	昨年、コロナ感染症の影響で昨年の各大会・発表会が中止や縮小されて十分に活動できなかったためか、2年生でも部加入率があまり下がらなかったと考えられる。一方今年度は大会や発表会が開催されたものの、コロナ感染症の為に練習制限があり十分に活動できず、活動量や成績に満足できていない生徒がいる。今後は限られた活動であっても結果や充実感が得られるように各部で工夫していくよう支援していくことが大切である。
	④ 明倫祭の外部公開を継続し、校内開催と校外開催の内容を充実させ、近隣商業施設・小中学校でのポスター掲示などの広報活動を活発にすることで、地域と連携を目指す	1日目の来場者数のうち小中学生・地域住民が A 330人以上 B 300人以上 C 270人以上 D 230人未満	一般公開取りやめのためデータなし	新型コロナウイルス感染症の予防対策として、外部からの来場者を入れない対応をした。来年、一般公開ができた場合に生徒たちの展示・発表で来場者をおもてなしできるようにしていく。
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示など地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神と主体性の涵養を図る。外に出る機会は制限されるが、それでもできる範囲で活動していく。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間8回以上 B 年間5～7回 C 年間4～5回 D 年間4回未満	全体 C 【実施できたもの】 1 図書選定実習 (5/21) 2 ビブリオトーク (6/18) 読み聞かせボランティアの方を招いて実施した 3 絵本読み聞かせ講習会 (7/2) 4 ポップ作成講習会 (10/22) 書店の方を講師として招いて実施 5 カレード見学会 (12月3日)	予定していた8回の活動のうち、コロナ感染状況の影響などで、3回の活動が中止または非公開となったが、2学期は感染状況も改善したので予定していた活動を実施することができた。来年度以降も状況を見ながらできることを確実に実施し生徒の活動機会を確保していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・高校生活の充実や友達との楽しい思い出が必要で学校での課外活動が大事である。課外活動には制限が有ると思うが活発に行われ、地域の行事にも積極的に参加されており、先生の指導の結果だと思う。これからも継続して地域行事への参加をお願いしたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・コロナ禍の制限の中で工夫し、課外活動、地域行事への参加の充実に努める。		

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、〈 〉はR02最終評価のデータ

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	朝の挨拶運動で協力していただく中で生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	80.8% A 〈82.3% : A〉	コロナ禍の感染防止のために常時マスクを着用し、大きな声を出すことに制限があったこともあり、良くあてはまるが減少したと考える。今後のコロナ感染症の状況に関わらず、教職員が生徒に朝の登校時、授業の始まりと終わり、下校時などで積極的に挨拶し、小さな声であっても声を出して挨拶する習慣が身につけられるようにする。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	96.0% A 〈96.8% : A〉	12月学校評価アンケート結果では、7月よりも「よく当てはまる」と答えた生徒が減少し、「やや当てはまる」と答えた生徒が増加となっている。あわせると昨年度と大きく変わらないが、今後も生徒が身なりについての意識を高めるように全職員が共通理解をもって指導していきたい。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	交通ルール（自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない）を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	96.0% A 〈96.1% : A〉	交通ルールを遵守する生徒の割合が高いが、登下校時にイヤホン装着・並列走行している生徒が多く見られる。並列走行については自転車同士の接触事故の発生や一般の歩行者から注意の電話を受けており、交通事故を防止し自分だけでなく他者の命を守るためにも交通ルールの遵守について指導をしていきたい。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	※コロナ感染症の為、最終評価 無し	新型コロナウイルス感染症の影響の為、今年度は6月に予定していた学校全体で学校周辺の清掃活動だけでなく、10月に予定していた部活動有志による野々市駅・中央公園・学校周辺の清掃活動も中止となった。2年連続でボランティア活動が満足にできず、ボランティア意識が低下したと考えられるので、ボランティア活動ができる状況になった時には、学校全体や部活動で複数回の活動が経験できるようにしたい。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	学校生活が楽しいと感じる生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	86.4% B 〈86.0% : B〉	学校生活に楽しさを感じる理由は生徒それぞれ異なるであろうが、学校のどこかに自分の居場所があれば「ややあてはまる」と答えられると思われる。しかし、学校そのものを苦手とする生徒が一定数存在することも許容したい。そのような生徒でもクラス内の人間関係がゆるく繋がっていて息苦しくなければ、安心して学校生活を送ることができるようである。教員が気づくことはもちろんであるが、日頃から生徒に対し、問題を抱えたときに大人に相談するように発信し続け、早期の発見と解決を図りたい。

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、〈 〉はR02最終評価のデータ

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	生徒の変化に対して a (素早く対処し、解決に至った)、b (素早く察知し、対応することができた) の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	87.9% C 〈96.1% : A〉	「心のケアを必要とする生徒に対して連携を図り組織的な対応をしている」では、よく当てはまる45.5%、やや当てはまる48.5%で計94.0%であったことから、困り感を抱えていることがわかりやすい生徒には、担任と相談室及び生徒課が連携を密にし、問題に適切な対応をすることができたと考えられる。しかし、最近、家庭に絡む問題を抱える生徒や繊細な生徒が増えてきており、本人が言わなければわからないことが多い。そのために気づかずに対応の遅れがもったようである。今後は生徒情報の共有が重要であることを教員間で再確認し協力して対応したい。
	⑦ 歯科検診の結果で健康管理上、受診・治療が必要と診断された生徒に対し、個人面談を通して自己の健康課題を意識させ医療機関での受診率を高める。	歯科検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 45%未満	50% C 〈20.7% : D〉	今年度は1学期中に検診ができたため、昨年度と比較すると受診率が向上した。しかし、まだ新型コロナウイルス感染症の影響で受診控えの生徒がいるのではないかと考えられる。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 5.0冊以上 B 4.0冊以上 C 3.5冊以上 D 3.5冊未満	一人あたり2.5冊 D 4月～12月末現在貸出 1946冊 1年生 1104冊 2年生 505冊 3年生 337冊	2学期は思ったほど伸びなかった。今後も図書だよりや展示などを通して貸出増加に向けて働きかけをしていく。
学校関係者評価委員会の評価		・挨拶についてA評価となっているが、印象として挨拶してくれる生徒は少ない。声を出すのが難しいなら会釈をすすめてはどうか。 ・交通事故件数が昨年度の7件から14件と増加としているので、生徒に対して更なる交通安全指導が必要である。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・挨拶に関する取組をより一層進めるとともに、必要に応じ見直す。 ・重大な交通事故につながることをないよう交通安全指導等により事故件数の抑制に努める。		
5 GIGAスクール構想の実現に向けた教職員の研修をとおしてICT活用指導力の向上を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① GIGAスクール構想の実現に向けた教職員の研修をとおしてICT活用指導力の向上を図る。	研修をとおしてICT活用指導力が向上した教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	97% A 〈R03新規項目につき、R02データなし〉	短時間ではあるが計画的・継続的にテーマを絞った形で月1回の校内研修を実施し、GIGAスクール構想モデル校としての合計8回に及ぶ公開授業をはじめ日ごろからChromebookを活用した授業を行い、着実に活用が進んでいる。今後はより一層活用が進められるよう教員のニーズにあった研修を企画・継続していきたい。
	② 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める。	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の人数が A 0人 B 1.0人未満 C 2.0人未満 D 3.0人以上	月平均3.1人 D 〈月平均1.6人:C〉	一昨年と比較すると改善しているが、授業や校務、部活動指導で、時間外勤務が月80時間超、月100時間超の教員は一定数いるのが現状である。教育の質を確保しつつ、ICTの活用をはじめとした業務改善や業務の偏りの是正、教師の意識改革により、過重な労働とならないよう取り組みを進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・教職員の時間外勤務は月平均80時間を超える教職員を増やさず、教育の質の維持向上に努めるため、より一層の工夫をして欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・ICT活用による業務改善や業務の偏りの是正を進める。		